

# 小笠原研究年報

38

2014年度  
(2015年5月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会



# 小笠原研究年報

## 38

2014年度  
(2015年5月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会

表紙写真（撮影：加藤英寿）

左上：聳島（大山山頂から南浜方面）

右中：父島（中央山山頂から旭山・三日月山方面）

左中：母島（堺ヶ岳山頂から乳房山方面）

右下：南硫黄島（北側の海上から松江岬方面）

# 小笠原研究年報 第 38 号 (2014 年度)

## 目 次

### 調査報告・解説

#### 大道金松の官途について

.....石井 良則 ..... 1

#### 父島における陸水の水文化学特性—特に溶存成分の起源に着目して—

.....森 和紀・大八木英夫・三田 明寛 ..... 17

#### 小笠原諸島における最初のセミの記録はいつか？

.....大林 隆司 ..... 31

#### 森林生態系保護地域「利用のルール」による、

父島のオガサワラノスリ営巣地への保全効果.....千葉 夕佳 ..... 41

#### 髯島列島におけるコアホウドリ類の繁殖状況

.....堀越 和夫・鈴木 創・千葉 勇人 ..... 51

#### 小笠原諸島固有種オガサワラボチョウジの保全について (2)

.....須貝 杏子・渡邊 謙太・向 哲嗣・加藤 英寿・菅原 敬 ..... 65

#### ノヤギ駆除後の媒島の草地植生の地上部バイオマス

##### —土壌の化学特性—環境要因との関係

畑 憲治・郡 麻里・森田 沙綾香・平舘 俊太郎・可知 直毅 ..... 75

### 研究ノート

#### 小笠原諸島海域初記録のエクレアナマコ *Holothuria*

(*Halodeima*) *nigralutea* (楯手目: クロナマコ科)

.....成瀬 貫・藤田 喜久・佐々木 哲朗・山田 鉄也 ..... 87

#### 父島におけるバン *Gallinula chloropus* の繁殖記録

.....千葉 勇人・大好 健二・鈴木 創・鈴木 直子 ..... 91

#### オガサワラボチョウジにおける花序あたりの花数は列島間で異なる

.....渡邊 謙太・須貝 杏子・向 哲嗣・加藤 英寿・菅原 敬 ..... 97

#### 母島列島の姉島南鳥島と妹島鳥島における海鳥類の営巣数の年変動

.....川口 大朗・向 哲嗣・勝部 五葉 ..... 103

### 年次報告と資料

2014 年度の研究体制 ..... 109

2014 年度小笠原研究費会計報告 ..... 110

平成 26 年度小笠原研究施設利用者一覧..... 111

平成 26 年度小笠原研究施設等月別利用状況..... 118

小笠原研究施設の利用について..... 119

「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」について..... 120

首都大学東京小笠原研究施設使用要綱..... 125

# 年次報告と資料

## 2014 年度の研究体制

### 小笠原研究委員会

#### 1. 委員（規程第3条）

都市教養学部	人文社会系	准教授	谷口	央
都市教養学部	法学系	教授	野上	和裕
都市教養学部	経営学系	准教授	高橋	勅徳
都市教養学部	理工学系	准教授	江口	克之
都市環境学部		教授	菊地	俊夫
システムデザイン学部		教授	阿保	真
健康福祉学部		教授	福士	政広
大学教育センター		教授	今中	國泰
オープンユニバーシティ		教授	稲山	貴代
都市教養学部理工学系長			可知	直毅
首都大学東京管理部長			宮原	照文

#### 2. 事務局

理系管理課	庶務係	熊谷	友里
	庶務係長	雨宮	真一

### 専門部会

#### 1. 学内専門委員（規程第8条第3項）

総括	都市教養学部	理工学系	教授	可知	直毅 ※
庶務	都市教養学部	理工学系	助教	加藤	英寿（利用窓口）
	都市環境学部		助教	山崎	公子（小笠原クラブ）
	都市環境学部		准教授	沼田	真也（教育プログラム）
会計	都市教養学部	理工学系	教授	可知	直毅 ※
編集	都市教養学部	理工学系	助教	加藤	英寿
	都市教養学部	人文社会系	教授	ロング	ダニエル
	都市教養学部	理工学系	教授	可知	直毅 ※

#### 2. 学外専門委員（規程第8条第4項）

小野	幹雄（元東京都立大学理学部／名誉教授）
岡	秀一（元首都大学東京都市環境学部／客員研究員）

※ 第3条委員を兼ねる

## 2014 年度小笠原研究費会計報告

予 算		
1. 総 額		1,512,000 円
2. 支 出		
1) 旅 費		500,000 円
	小計	500,000 円
2) 物品費	小笠原研究年報 37 号 (2013 年度) / Ogasawara Research No 41 (2014 年度) 印刷費	650,000 円
	郵送費 (メール便)	40,000 円
	ホームページ管理費	150,000 円
	資料 PDF 化	50,000 円
	小笠原研究施設消耗品	10,000 円
	小計	900,000 円
3) 謝 金		112,000 円
	小計	112,000 円
計		1,512,000 円
決 算		
1. 総 額		1,512,000 円
2. 支 出		
1) 旅 費	小笠原 3 回、大島 1 回 返 納	415,331 円 84,669 円
	小計	500,000 円
2) 物品費	小笠原研究年報 37 号 印刷費 (含メール便費)	457,380 円
	ホームページ管理費	318,060 円
	プリンタ	24,600 円
	スキャナー	39,800 円
	消耗品*	59,967 円
	返 納	193 円
	小計	900,000 円
3) 謝 金	送付リスト管理・年報発送・HP 管理 返 納	111,600 円 400 円
	小計	112,000 円
計		1,512,000 円

\*プリンタ用インク、カラーボックス、卓上ライト、マイク内蔵カメラ、文具類等

## 平成 26 年度 小笠原研究施設利用者一覧

期間	所属・職・氏名	目的
26. 4. 27 ～ 26. 5. 5	理工学研究科 客員研究員 石田 厚 (京都大学 教授) 特別研究学生 才木真太郎 茨城大学 教授 山村靖夫 院生 鍋田健人 山梨県富士山科学研究所 主幹研究員 中野隆志 日本大学 院生 白井 誠 森林総合研究所(関西支所) 学振特別研究員 吉村謙一	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 5. 9 ～ 26. 5. 12	理工学研究科 助教 加藤英寿	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
26. 5. 9 ～ 26. 5. 18	理工学研究科 院生 辻村美鶴 京都大学農学研究科 院生 成田智史 同 津田優一	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
26. 6. 14 ～ 26. 6. 17	総務部施設課施設係 玉川泰央 原田和哉 管理部理系管理課庶務係 熊谷友里	小笠原研究施設の改修に伴う現地視察
26. 6. 14 ～ 26. 8. 6	北里大学 院生 杉村尚倫	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 6. 14 ～ 26. 6. 23	理工学研究科 客員研究員 常木静河	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 6. 14 ～ 26. 8. 20	理工学研究科 特別研究学生 才木真太郎	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 6. 19 ～ 26. 7. 5	理工学研究科 助教 加藤英寿	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
26. 6. 20 ～ 26. 7. 20	森林総合研究所(関西支所) 学振特別研究員 吉村謙一	小笠原の植物の生理生態学的研究



期間	所属・職・氏名	目的
26. 6. 20 ～ 26. 7. 5	理工学研究科 特任研究員 畑 憲治 客員研究員 平館俊太郎	外来生物駆除後の海洋島の生態系変化： 環境不均質性を考慮した管理シナリオの提案
26. 6. 20 ～ 26. 7. 11	京都大学農学研究科 院生 成田智史 同 津田優一	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する 研究
26. 6. 20 ～ 26. 7. 30	理工学研究科 院生 辻村美鶴	外来生物の侵入による海洋島送粉生態系のレ ジームシフトとその進化・生態的影響
26. 6. 22 ～ 26. 6. 23	理工学研究科 客員研究員 鈴木節子	小笠原諸島の植物の遺伝的多様性に関する研 究
26. 6. 25 ～ 26. 7. 5	理工学研究科 客員研究員 川上和人	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
26. 6. 26 ～ 26. 6. 29	理工学研究科 教授 可知直毅	小笠原における外来種対策に関する調査
26. 6. 26 ～ 26. 7. 5	理工学研究科 客員研究員 大澤剛士	外来生物駆除後の海洋島の生態系変化： 環境不均質性を考慮した管理シナリオの提案
26. 6. 26 ～ 26. 7. 11	理工学研究科 院生 村上勇樹	外来生物駆除後の海洋島の生態系変化： 環境不均質性を考慮した管理シナリオの提案
26. 7. 2 ～ 26. 8. 20	京都大学 院生 海野大和	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 7. 4 ～ 26. 7. 30	理工学研究科 客員研究員 石田 厚	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 7. 4 ～ 26. 7. 20	山梨県富士山科学研究所 主幹研究員 中野隆志	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 7. 14 ～ 26. 8. 6	日本大学 学部生 乙成こずえ	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 7. 14 ～ 26. 7. 23	北里大学 講師 坂田 剛	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 7. 14 ～ 26. 8. 20	日本大学 院生 白井 誠	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 7. 14 ～ 26. 7. 17	北海道大学 教授 佐野雄三	小笠原諸島の植物の生理生態学的研究
26. 7. 21 ～ 26. 7. 30	理工学研究科 院生 辻村美鶴	オガサワラボチョウジにおける送粉生態・遺 伝的多様性の解明

期間	所属・職・氏名	目的
26. 7. 27 ～ 26. 8. 3	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫 ラットコントロールコンサルティング 代表 矢部辰男	小笠原諸島における生物相とその保全に関する研究
26. 8. 3 ～ 26. 8. 20	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫 日本大学 准教授 佐藤雪太	小笠原諸島における生物相とその保全に関する研究
26. 8. 3 ～ 26. 8. 10	理工学研究科 客員研究員 渡邊謙太	オガサワラボチョウジにおける送粉生態・遺伝的多様性の解明
26. 8. 9 ～ 26. 8. 10	理工学研究科 客員研究員 須貝杏子	オガサワラボチョウジにおける送粉生態・遺伝的多様性の解明
26. 8. 17 ～ 26. 8. 20	理工学研究科 教授 可知直毅 客員研究員 石田 厚 人文・社会系 学部生 大平あかり 同 秋山直人 同 松井紅緒 法学系 学部生 前川もも 理工学系電気電子工学コース 学部生 吉田直樹 理工学系生命科学コース 学部生 吉海邦洋 同 宮川彩花 同 天野尚美 都市環境学部建築都市コース 学部生 沖山天真 システムデザイン学部 インダストリアルアートコース 学部生 石田航大 システムデザイン学部 経営システムコース 学部生 行方聖菜 放射線学科 学部生 小野山瑞咲 理学療法学会 田村達哉 京都大学 学部生 山口 凜 同 清水麻友美 同 水谷 暖 理工学研究科 非常勤職員 近藤日名子	教養科目「自然と社会と文化」小笠原コース

期間	所属・職・氏名	目的
26. 8. 17 ～ 26. 8. 24	人文科学研究科 教授 ロング・ダニエル	首都大学教養科目「自然と社会と文化」への協力および父島における言語調査
26. 8. 20 ～ 26. 8. 24	人文科学研究科 院生 沼里 聡 同 李 舜炯 同 志喜屋カリリーナ 研究生 權 恩熙 北九州市立大学 学部生 長門正大	東京の他言語コミュニティ小笠原諸島父島における言語的観光資源に関する実態調査
26. 8. 31 ～ 26. 9. 10	人文社会系 学部生 白井里佳	小笠原村在住の高齢者の生きがい観に関する研究
26. 8. 31 ～ 26. 9. 7	理工学研究科 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島の自然再生における絶滅危惧種の域内外統合的保全手法の開発
26. 9. 7 ～ 26. 9. 24	京都大学農学研究科 院生 津田優一	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
26. 9. 14 ～ 26. 10. 1	京都大学農学研究科 院生 成田智史	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
26. 9. 14 ～ 26. 9. 24	理工学研究科 助教 加藤英寿	小笠原の植物の遺伝的多様性に関する研究
26. 9. 21 ～ 26. 9. 24	理工学研究科 准教授 菅原 敬	小笠原諸島の自然再生における絶滅危惧植物の保全のための繁殖生態学的調査
26. 9. 21 ～ 26. 9. 24	理工学研究科 院生 新田竜斗	ヒメフトモモの遺伝的多様性に関する研究
26. 9. 21 ～ 26. 9. 24	理工学研究科 客員研究員 高山浩司 中央大学理工学部 教授 西田治文 Concepcion 大学植物学教室 教授 Patricio Lopez	海洋島の生物多様性とその保全に関する研究
26. 9. 21 ～ 26. 10. 14	理工学研究科 院生 辻村美鶴	外来生物の侵入による海洋島送粉生態系のレジームシフトとその変化・生態的影響
26. 9. 21 ～ 26. 10. 4	理工学研究科 客員研究員 須貝杏子	小笠原の植物の遺伝的多様性に関する研究

期間	所属・職・氏名	目的
26. 9. 28 ～ 26. 10. 4	理工学研究科 客員研究員 鈴木節子	小笠原の植物の遺伝的多様性に関する研究
26. 9. 28 ～ 26. 10. 7	理工学研究科 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島の自然再生における絶滅危惧種の 域内域外統合的保全手法の開発
26. 10. 7 ～ 26. 10. 14	都市環境学部 助教 山崎 公子 院生 細谷 奨 学部生 岩見 眞吾 同 鈴木 健太	小笠原諸島の水道水源に関する研究
26. 11. 1 ～ 26. 11. 4	人文科学研究科 教授 ロング・ダニエル 院生 北野 景 同 張 鋭 同 張 曉丹 同 孫 雅楠 同 李 舜炯 留学生 Aichinger Theresa 同 Fankhauser Peter 同 Laurence Neville-Williams 同 Pulkarthafer Florian 都市教養学部 学部生 山岡舞花 同 前島早瑛 同 藤ノ木美咲 同 須田哲司 同 山崎史輝 同 甲賀真広 システムデザイン研究科 院生 大平健弘	東京の他言語コミュニティ小笠原諸島父島に おける言語的観光資源に関する実態調査
26. 11. 20 ～ 26. 11. 23	総務部施設課 稲田 剛浩 同 塚原 達矢	小笠原研究施設改修工事
26. 11. 20 ～ 26. 11. 25	理工学研究科 客員研究員 鈴木節子 同 須貝杏子	外来生物の侵入による海洋島送粉生態系のレ ジームシフトとその変化・生態的影響
26. 12. 10 ～ 26. 8. 25	理工学研究科 特別研究学生 才木真太郎	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 12. 16 ～ 26. 12. 25	理工学研究科 客員研究員 石田 厚	小笠原の植物の生理生態学的研究

期間	所属・職・氏名	目的
26. 12. 16 ～ 27. 1. 11	日本大学 院生 白井 誠	小笠原の植物の生理生態学的研究
26. 12. 22 ～ 26. 12. 25	理工学研究科 客員研究員 鈴木節子 同 須貝杏子	外来生物の侵入による海洋島送粉生態系のレ ジームシフトとその変化・生態的影響
26. 12. 22 ～ 26. 12. 28	理工学研究科 院生 新田竜斗	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する 研究
26. 12. 22 ～ 26. 12. 25	理工学研究科 教授 可知直毅	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する 研究
26. 12. 22 ～ 26. 12. 25	森林総合研究所（関西支所） 学振特別研究員 吉村謙一	小笠原の植物の生理生態学的研究
27. 1. 8 ～ 27. 1. 17	理工学研究科 特任研究員 畑 憲治	小笠原諸島の外来生物の駆除が在来生態系に 及ぼす影響の評価に関する研究
27. 2. 8 ～ 27. 3. 31	理工学研究科 客員研究員 森 英章 環境省小笠原自然保護管事務所 自然保護官 山下淳一	小笠原諸島における希少昆虫および陸産貝類 の生息域外保全に関する研究
27. 2. 27 ～ 27. 3. 8	理工学研究科 客員研究員 島野智之 北海道大学理学院 研究員 蛭田眞平	小笠原諸島のダニ類に関する研究
27. 2. 27 ～ 27. 3. 2	首都大学東京支援部 野口真佐江 総務部施設課管理係 加藤益市 総務部施設課施設係 塚原達矢 理系管理課庶務係 熊谷友里	小笠原研究施設の改修に伴う現地視察
27. 2. 28 ～ 27. 3. 17	理工学研究科 客員研究員 堀越和夫 日本大学 准教授 佐藤雪太	小笠原諸島における生物相とその保全に関す る研究
27. 3. 24 ～ 27. 3. 28	都市環境学部 准教授 小田義也	父島における常時微動観測（地盤調査）

期間	所属・職・氏名	目的
27. 3. 28 ～ 27. 3. 31	人文科学研究科 教授 ロング・ダニエル	小笠原ことば辞典の改訂版に向けた言語実態調査
27. 3. 28 ～ 27. 3. 31	人文科学研究科 院生 李 舜炯 研究生 権 恩熙 都市教養学部 学部生 甲賀 真広 北九州市立大学 学部生 長門 正大	小笠原ことば辞典の改訂版に向けた言語実態調査

# 平成 26 年度 小笠原研究施設等月別利用状況

(単位、人・日)

区 分			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
施設利用者	教 員 職 員	実利用者数	0	1	2	3 (2)	3 (1)	4 (2)	1	3	1	0	4	6	28 (5)
		延利用者数	0	4	16	19 (14)	30 (18)	23 (8)	8	12	4	0	8	17	141 (40)
	院 生 学部生	実利用者数	4 (4)	7 (6)	5 (2)	8 (5)	25 (4)	5 (1)	5	17	1	0	0	4	81 (22)
		延利用者数	16 (16)	50 (40)	55 (22)	137 (86)	137 (51)	59 (18)	39	68	7	0	0	16	584 (233)
	客 員 研究員 研究生 研修員	実利用者数	3 (2)	3 (2)	11	12 (2)	10 (1)	3	3	2	5	2	6	6	66 (7)
		延利用者数	12 (8)	15 (10)	175	163 (122)	68 (3)	17	18	12	50 (34)	21 (11)	46 (46)	112 (112)	709 (346)
	月 計	実利用者数	7 (6)	11 (8)	18 (2)	23 (9)	38 (6)	12 (3)	9 (0)	22 (0)	7 (0)	2 (0)	10 (0)	16 (0)	175 (34)
		延利用者数	28 (24)	69 (50)	246 (22)	319 (222)	235 (72)	99 (26)	65 (0)	92 (0)	61 (34)	21 (11)	54 (46)	145 (112)	1434 (619)
調 査 車 利用状況	延利用日数		0	3	23	7	10	22	15	8	4	6	2	9	109
	延 走 行 距 離 数		0	48	187	15	260	102	335	127	113	97	69	111	1464
	当 月 最 終 走 行 距 離		7504	7552	7739	7754	8014	8116	8451	8698	8811	8908	8977	9088	
25 年度 月 計	実利用者数		2 (0)	9 (6)	7 (6)	19 (12)	31 (8)	5 (1)	14 (9)	20 (4)	0 (0)	1 (0)	12 (6)	58 (12)	178 (64)
	延利用者数		12 (0)	48 (24)	77 (48)	309 (190)	167 (50)	24 (3)	115 (63)	92 (16)	0 (0)	4 (0)	100 (60)	302 (92)	1250 (546)

(注意)

- 1 延利用者数は、3泊4日の場合、4人として計上した。
- 2 ( ) 内の数は、本学に籍を持たない共同研究者であり、内数とした。
- 3 教員には、名誉教授を含む。
- 4 業者は、客員研究員研究生研修員の ( ) に入れた。

### — 小笠原研究施設利用について —

1. 小笠原での研究計画が具体的に決まったら、小笠原研究年報に記載の「首都大学東京小笠原研究施設使用要綱」をよく読み、施設使用の申請書を、使用開始希望日の2週間前までに小笠原施設利用窓口に出してください。2015年度の担当は、南大沢キャンパス・理工学研究科生命科学専攻・牧野標本館の加藤英寿（katohide@tmu.ac.jp、外線 042-677-2423、内線 2726）です。
2. 申請書には申請者の氏名、所属、身分、および施設使用者の氏名、所属、身分、目的、使用期間を明記してください。申請者は本学所属の教職員（名誉教授、客員教員、特任研究員を含む）に限ります。小笠原に関連する研究課題を持つ本学大学院生および卒業研究生は指導教員を申請者にし、施設使用者として申請できます。また、本学での身分を持たない学外共同研究者の場合は、本学所属の利用者に同行することを原則とし、施設使用者欄に氏名、所属、身分を記入してください。
3. 使用許可がおりた後、出発の前日までに理系管理課庶務係（理工学系事務室）で施設使用許可書、施設利用マニュアル、施設の鍵を受け取ってください。
4. 施設の使用に当たっては、「小笠原研究施設使用マニュアル」をよく読み、間違いないようにしてください。
5. 帰学後、必ず研究施設使用報告書を理系管理課庶務係に提出してください。
6. 施設使用マニュアル、申請書等の様式は、小笠原研究委員会のホームページ（<http://www.tmu-ogasawara.jp/>）からもダウンロードできます。



## 「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」について

小笠原研究委員会は、「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research（小笠原研究）」の2種類の出版物を刊行している。「小笠原研究年報」は様々な分野・機関での研究の交流と、本学の小笠原研究成果などに関する情報を広く一般に提供することを目的とし、毎年5月に刊行する。印刷部数は460である。原稿〆切は1月20日とする。「Ogasawara Research（小笠原研究）」は原則として1論文1冊として主に英文の研究論文や総説を毎年3月に刊行する。印刷部数は500で、うち30部は執筆者渡し。両出版物とも原稿は主として編集委員会より依頼するが、自由な投稿も歓迎する。投稿要領および原稿の体裁見本は、小笠原研究委員会のホームページ（<http://www.tmu-ogasawara.jp/>）からダウンロードできる。

既刊号の入手に関する問い合わせ先は小笠原研究委員会（生命科学コース・可知）である。なお、2009年度以後の「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」は、首都大学東京の機関リポジトリ「みやこどり」（<http://www.repository.lib.tmu.ac.jp/dspace/>）でPDF版が公開されている。

### 「小笠原研究年報」投稿要領

原稿はワープロソフト（Microsoft Word）を使って作製する（A4横書）。

投稿にあたり希少生物等の保全に対して配慮すること。

#### 原稿の体裁

表紙には、タイトル、著者名、著者のローマ字表記、著者の連絡先（住所、電話番号、ファックス番号、E-mail アドレス）を記入する。

本文の1ページ目の1行目にタイトル（中央揃え）を書く。2行目は空白とし、3行目以後に著者名（所属）を記入する（共著者が3名の場合は3～5行目に記入）。著者名（所属）の後に空白行を1行入れる。

本文中の見出しは以下のようにする。

#### 要約

##### I. はじめに

##### II. 材料と方法

##### 1. 調査地の概要

さらに細かい小見出しは著者にまかせる。

本文中ではカンマとピリオド（, .）ではなく句読点（、。）を使用する。

要約は300字以内とする。

#### 単位・数量の書き方

例：1/3、10%、15 m、40 km、63 g、3.5 t など、メートル法に準拠する。

## 本文中での文献の引用の仕方

上付きの1)などは用いない。日本語文献は、著者が2名以下の場合は「伊藤（1993）、内田・松田（1990）によると・・・」、著者が3名以上の場合は「木村ら（1993）によると・・・」のように引用する。文末の（ ）内での引用は「・・・が知られている（内田・松田、1990; Wilson *et al.*, 1992）。」や「・・・である（上田ほか、1993）」のように引用する（*et al.* はイタリック。（ ）内の複数文献は半角のセミコロンで区切る）。

欧文文献は、Balford & Thomas（1992）、3名以上は Burleu *et al.*（1982）のように引用する。文末の（ ）内での引用は、「・・・が知られている（Balford & Thomas, 1992; Wilson *et al.*, 1992）。」のように引用する。

## 引用文献の書き方

文献の言語にかかわらず第一著者の姓をアルファベット綴りした場合の、アルファベット順に並べる。同じ著者名が続いた場合も省略しない。雑誌名や Proceedings のタイトルは省略しない。各文献の最後のピリオドは、英語・日本語ともに半角のピリオドとする。

### ・ 日本語の論文

町田 洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出したテルラーアカホヤ火山灰．第四紀研究 17: 143-163.

### ・ 日本語の報告書

加藤芳郎・宇津川徹（1981）父島の土壌．小笠原諸島自然環境現況調査報告書（2）．東京都，133-142.

### ・ 日本語の単行本

町田 洋・新井房夫（1992）『火山灰アトラス』東京大学出版会，276p.

### ・ 日本語の単行本の一部

黒田 直（1992）土壌．小笠原自然環境研究会（編）『フィールドガイド小笠原の自然—東洋のガラパゴス』古今書院，46-51.

### ・ 欧文の論文

Aubry MP, Berggren WA & Kent DV (1988) Paleogene geochronology; an integrated approach. *Paleoceanography* 3: 707-742.

雑誌のタイトルはイタリックにする。

### ・ 欧文の報告書

Olsen RR & Cameron JL (1993) Larval development of the pencil urchin. *Proceedings of 6th International Echinoderm Conference*, 807p.

報告書のタイトルはイタリックにする。

### ・ 欧文の単行本

Fagri K & van der Pijl L (Eds.) (1979) *The Principles of Pollination Ecology*. Pergamon Press. 500p.

本のタイトルはイタリックにする。

## ・欧文の単行本の一部

Hori R, Pang VPE & Jin LT (1991) *On the pattern of gonadal development of the sea urchin*. In: *Biology of Echinodermata* (Ed. by Yanagisawa *et al.*), 249-255.

本のタイトルはイタリックにする。

## 表

表は1つずつ別紙に書かなければならない。1つの表は原則として1ページに印刷できる大きさとする。1ページを越える表については2つ以上に分割する。表のタイトルと説明は表の先頭を書く。各表のタイトルと説明は、まず「表1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。

## 図

各図ひとつをそれぞれ別紙にして、完全版下でそのまま製版できる状態のものを本文の最後に順番に添付する。カラー図版を希望する場合は事前に編集委員会に相談すること。図の説明は別紙にまとめて書く。各図の説明は、まず「図1」のように書き、ついで表題を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に、説明を加える。図の作画者や写真の撮影者が著者と異なるときは、そのことを明記し、また必要な場合は、著者においてあらかじめ著作権者の許可を受けておくこと。

## 投稿と編集

原稿~~メ~~切は原則として毎年1月20日とする。原稿の掲載可否は編集委員で決定する。E-mailの添付ファイルあるいはCD-R等で編集委員会宛に送付する。なお添付ファイルの上限は10MBとする。本文はWindows版Microsoft Wordで作成し、1つのファイルにする（一太郎等で作成した場合はWord形式に変換する）。Macintosh版の場合は、Windowsで読める形式に変換する。使用するフォントは、小見出しはMSゴシック、それ以外はMS明朝とする。表はWindows版Microsoft Excelで作成する。複数の表が存在する場合は、表ごとにファイルを作成するか、1つのファイルに別シートとして作成する。図は、画像ファイル（EPS、TIFF、JPEGなどの形式）として作成する。複数の図が存在する場合は、図ごとにファイルを作成する。

## 校正

原則として初校の校正は著者が行ない、再校以降は編集者が行う。著者校正は印刷上の誤りについてだけ行ない、内容や図表の変更は認められない。

## 別刷

各報文について50部を著者に無料で提供する。それ以上の別刷を希望する場合は著者負担とする。

## 「Ogasawara Research (小笠原研究)」 投稿要領

### 掲載論文

主として小笠原に直接または間接に関係をもったオリジナルな学術論文、調査報告、総説など。かなり長い報文で一冊として刊行するのが適当なものを優先するが編集委員会の判断で短い報文も一冊に含めて掲載する場合がある。又、投稿にあたり希少生物等の保全に対して配慮すること。

### 論文の体裁と執筆要領

英文、和文ともワープロ (Microsoft Word) を使用し、そのままオフセット印刷できるように図表を張りこんだ原稿 (A4、横書き) を作成する。原稿の表にはページ番号をふらず、裏に鉛筆書きでページ番号を記入する。英語と日本語のキーワードをそれぞれ5つ以内で列挙する (英語キーワードのアルファベット順)。キーワードには、原稿タイトルに含まれる語句は含めない。英文報文には和文要旨を、和文報文には英文要旨を References または引用文献の次のページにつける。章節のたて方は基本的に執筆者に任せるが脚注はできるだけ用いない。

文献引用の仕方、文献表の書き方は英文報文の場合、日本生態学会の英文誌である Ecological Research を、和文報文の場合、日本生態学会の和文誌である日本生態学会誌の規定を標準として参考とされたい。詳しい情報は、日本生態学のウェブサイト (<http://www.esj.ne.jp/esj/>) の日本生態学会誌投稿規定のページおよび Ecological Research のウェブサイト (<http://www.springer.com/11284>) に記載されている。

### 投稿と編集

原稿メ切は原則として毎年1月20日。電子ファイルとプリントアウト1部を編集委員会あてに送付する。原稿の掲載可否は編集委員会で決定する。電子ファイルの場合、本文は Microsoft Word、表は Microsoft Excel、図・写真は EPS、TIFF、JPEG など形式とするか、これらのファイルを1つの PDF ファイルにまとめたものとする。編集は、論文の内容によっては編集委員長が委任する臨時の編集委員によって行われる場合がある。なお、出版費が限られているので、投稿予定がある場合はあらかじめ12月中に編集委員会に相談すること。投稿は首都大学東京関係者以外からも受け付ける。他の著作からの図表を引用する場合は、著者の責任で出版社など著作権者の了解を取ること。

### 校正

原稿はそのままオフセット印刷されるため校正は不可能であるので、投稿時に十分注意すること。

## 投稿者へのお願い

今後、「小笠原研究年報」「Ogasawara Research」掲載の報文の全文あるいはその一部がインターネット文献検索サイト上に掲載されることも多くなると思われます。委員会宛に要請のあったものについてはできるだけ協力していきたいと考えておりますが、その中には「著作権の処理」をすませておく必要のあるものもあります。そこで、投稿される報文につきまして、あらかじめ電子化・公開することの許諾をいただければと存じます。特にご異存なければこのページをコピーし、下段の許諾書に署名または捺印の上、小笠原研究委員会宛お送り下さい。

なお許諾を頂けない場合はその旨お知らせいただければ幸いです。

小笠原研究委員会

---

## 許 諾 書

小笠原研究委員会 殿

年度「小笠原研究年報」「Ogasawara Research」掲載の自著報文類の電子化・公開については、これを許諾します。

年        月        日

氏名：

※ 著者が複数の場合はこの用紙にまとめて署名してもけっこうです。

## 首都大学東京小笠原研究施設使用要綱

### (趣 旨)

第 一 条 この要綱は、首都大学東京小笠原研究委員会規程第 9 条に基づき、首都大学東京小笠原研究施設（以下「小笠原施設」という。）の使用について、必要な事項を定めるものとする。

### (使用目的)

第 二 条 小笠原施設の使用は、小笠原諸島の自然及び社会を研究するとともに、同諸島の発展に基礎的分野で貢献することを目的とする。

### (使用資格)

第 三 条 小笠原施設を使用できる者は次の各号の一に該当する者とする。

- 一 本学の教職員（名誉教授及び客員教授（研究員）を含む。以下同じ）。
- 二 本学の学生
- 三 本学の教職員の共同研究者

2 前項第二号及び第三号に規定するものにあつては、原則として、本学教職員に同行するものとする。

### (使用手続)

第 四 条 小笠原施設を使用しようとするものは、別記様式第 1 号により小笠原研究委員会委員長（以下「委員長」という。）に申請しなければならない。

2 委員長は、使用を認めたときは、別記様式第 2 号により使用許可を通知するものとする。

3 使用者は、使用許可証を所持し、必要に応じて提示しなければならない。

### (使用者の義務)

第 五 条 使用者は、別に定める使用者心得を守り、施設、設備を良好な状態に保つように努めなければならない。

### (現状回復等)

第 六 条 使用者は、その責に帰する事由により、建物、設備及び備品等をき損、汚染又は滅失したときは、現状に回復し又はその損害を賠償しなければならない。

### (転貸等の禁止)

第 七 条 使用者は、小笠原施設をその用途以外に使用し、又は他の者に使用させてはならない。

### (使用許可の取消)

第 八 条 委員長は、使用者が次の各号の一に該当する場合には使用の途中でであっても使用許可を取り消すことができる。

一 申請の内容に虚偽があったとき。

二 使用者心得を守らないとき。

2 使用許可の取消しによって生ずる使用者の損害に関しては、使用者自らがその責を負うものとする。

(使用期限の延長)

第 九 条 研究上その他の理由で使用期限の延長が必要となった場合は、事前に委員長に期限延長を申請し、その許可を得なければならない。

(使用報告書の提出)

第 十 条 使用者は、使用報告書を使用終了後、別記様式第 3 号により速やかに委員長に報告しなければならない。

(調査用自動車の使用)

第十一条 小笠原施設の調査用自動車を使用する場合は、施設の使用を申請するに併せて別記様式第 4 号により、使用の許可を理系管理課長に申請するものとする。

2 調査用自動車の使用は本学の教職員に限る。

3 使用者は、調査用自動車運転日誌を、別記様式第 5 号により提出しなければならない。

(展示ホールの公開)

第十二条 小笠原施設の展示ホールは、使用者の滞在中、住民の見学に供されるものとする。

(研究成果)

第十三条 小笠原施設においてなされた研究の成果は、小笠原施設の研究業績として登録されるものとする。

(その他)

第十四条 使用者は、この要綱に定めるもののほか、小笠原研究委員会が定める指示に従わなければならない。

首都大学東京小笠原研究施設使用申請書

平成      年      月      日

小笠原研究委員会委員長    殿

所属  
職  
氏名  
電話

⑩

下記の通り施設使用を申請します。

記

1. 目 的（研究内容）

2. 使 用 期 間

自 平成      年      月      日  
至 平成      年      月      日（      名 延べ      日）

注）同一グループに使用期間が異なるメンバーが含まれる場合は、使用期間ごとに複数の申請書に分けて申請してください。

3. 使用者所属・職（学年）・氏名

※上記使用者にグループ代表者が含まれない場合    代表者氏名：\_\_\_\_\_

4. 調査用自動車

1. 使用する      2. 使用しない      （どちらかを消す）

5. その他

平成      年      月      日

上記申請について    許可    ・    不許可    とする。

委 員 長    総務担当		事務局	管理課長	庶務係長	担    当



平成      年      月      日

所属  
職  
氏名  
電話



記

- ## 2. 使用期間

自 平成 年 月 日  
至 平成 年 月 日 ( 名 延べ 日)

3. 使用者所属・職（学年）・氏名

※上記使用者にグループ代表者が含まれない場合 代表者氏名：

1. 使用した 平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日  
2. 使用しなかった

- ☐浴室・台所・湯沸器のガス元栓      ☐施錠（窓、出入口）      ☐各室消灯  
☐引継（他のグループ代表者氏名： ）  
☐その他（

報告内容について確認しました。平成 年 月 日

委員長

事務局	管理課長	庶務係長	担 当

# 小 笠 原 調 査 報 告 書

\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日提出

## 1 研究テーマ

\_\_\_\_\_

## 2 研究代表者

氏 名 \_\_\_\_\_

所 属 \_\_\_\_\_

住 所 \_\_\_\_\_

電話／ファックス \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

## 3 共同研究者氏名（所属・学年／身分）（研究協力者を含む）

4 研究期間（西暦）\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 ～ \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

5 小笠原研究施設利用 有 無 （該当する方に○）

## 6 調査の概要（書き切れない場合は別紙に）

### 1) 調査対象地域

### 2) 調査内容（400字程度）

〈編集担当者〉

編集委員長 可 知 直 毅（理工学研究科 教授）  
編集委員 ロング ダニエル（人文科学研究科 教授）  
編集委員 加 藤 英 寿（理工学研究科 助教）  
編集補助 畑 憲 治（理工学研究科 特任研究員）  
編集補助 加賀屋 美津子（理工学研究科 リサーチアシスタント）

印刷・発行日：2015年5月31日

発行者：首都大学東京小笠原研究委員会  
委員長 可 知 直 毅  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
首都大学東京 理工学研究科内

メールアドレス island@tmu.ac.jp

ウェブサイト <http://www/tmu-ogasawara.jp/>

印刷：(株) 相模プリント  
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17  
電話 042-772-1275



古紙配合率70%再生紙を使用しています